

## 当院の医療の最適化について

## 検討の経過

## 当院の役割

当院は、急性期医療を担う地域の中核病院として、医療ニーズに合わせて高度な医療を提供するとともに、公立病院として政策医療を担う責務がある。また、地域医療機関との連携を密にするとともに、地域の医療水準の向上に寄与していかなければならない。

## 環境の変化

一方で、今後、働き方改革の時間外労働勤務規制による労働力の削減、医療従事者の不足、新興感染症による診療制限など、医療を取り巻く環境の変化により医療提供体制に大きな影響が出ることが見込まれる。



- ①当院のパフォーマンスを最大限発揮するため、当院の持つ医療資源をどのように効率的に活用するか
  - ②「地域のニーズ」と「限られた資源で提供できる医療」をどのように折り合いをつけるか
- ⇒当院の「医療の最適化」を検討する必要がある。

# ①医療資源の効果的・効率的な活用について

	カテゴリ	主な取組み
1	(入院・外来) ・病床の効率的な活用 ・外来診療への移行促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空床が増える週末に大腸ポリープ入院や点滴投薬入院を入れる</li> <li>・様々な入院に応じたクリニカルパスの作成・利用</li> <li>・入院は急性期治療を中心とし、急性期を脱した患者は外来にシフト</li> <li>・がん薬物療法患者の外来薬物療法の積極的な導入</li> <li>・CT検査適応の適正化や外注化による緊急CT検査増加への対応</li> <li>・スムーズな外来診察受入れによる診察時間の短縮 等</li> </ul>
2	・病病・病診連携や介護施設との連携強化(逆紹介の推進)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病状が安定した患者の逆紹介の推進による外来診療枠の確保</li> <li>・在宅医療や回復期リハビリ病院、ホスピス等へのスムーズな転院調整</li> <li>・登録医紹介患者の初診までの待機時間短縮 等</li> </ul>
3	・多職種連携・タスクシフト・シェアの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者説明・服薬確認・造影検査のルート確保・カテーテル検査補助等のタスクシフト</li> <li>・非常勤医師の最適な待遇維持や改善による安定的な非常勤医の確保 等</li> </ul>
4	・手術室・手術枠等の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術入れ替え時間の短縮による手術枠の増加</li> <li>・外来手術センターによるスムーズな手配</li> <li>・鏡視下手術など低侵襲手術導入による入院期間の短縮</li> <li>・カテ室の効率的な活用 等</li> </ul>
5	・デジタル化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術説明動画の導入による説明業務の負担軽減</li> <li>・他院の検査画像のオンライン事前参照による不要な受入れの減少</li> <li>・AI読影支援による時間短縮と精度向上 等</li> </ul>

## ② 当院が担う医療の整理

### (1) 当院が担うべき医療

#### <主な疾患・医療>

・救急、小児、周産期などの政策的医療 ・糖尿病の急性期疾患 ・自然気胸 ・重症喘息発作 ・各種悪性腫瘍 ・脳卒中 ・神経救急 ・心不全増悪時の急性期治療 ・急性心筋梗塞 ・破裂した動脈瘤手術 ・急性喉頭蓋炎等の重症感染症 ・急性期リハビリテーション など



- 専門性の高い医療・急性期疾患
- 当院でしかできない医療・他院では対応困難
- 地域の医療需要が高い
- 緊急性が高く他院に搬送する猶予がない
- 地域周産期センターやがん拠点病院として

### (2) 地域の医療環境等により調整必要な医療

#### <主な疾患・医療>

・急性動脈閉塞の手術治療 ・良性疾患の手術 ・血液良性疾患の慢性期 ・透析導入 など



- 地域連携パスの有効活用により対応可能
- 待機可能な手術
- 地域の医療機関によっては外来対応可能

### (3) 他院にゆだねることができる医療

#### <主な疾患・医療>

・病状の安定した患者、良性疾患の経過観察  
・高齢者の一般的な疾患（誤嚥性肺炎、尿路感染症等） ・圧迫骨折等 ・急性期を過ぎた外傷、脳卒中 ・紹介状のない外来患者 など



- 一般病院で治療可能な疾患・医療
- 緊急性が低い疾患
- 地域連携で対応可能な疾患・医療



## 当院の方向性

⇒働き方改革等が進むなか、デジタル化やタスクシフト、逆紹介の強化、病床の効率的な活用など自院での業務効率化を進めることで、当院の医療資源を最大限活用していく。

⇒公立病院・急性期病院として「当院が担うべき医療（緊急性が高い、専門性の高い急性期疾患）」に注力するため、地域医療機関との連携による役割分担を進め、当院の医療の適正化に取り組む。